

札幌国際センター



▲JICA札幌恒例マイアヒダンス

地元児童たちと交流、 「ワールド・ジャンクション」開催

11月3日(火・祝)、JICA札幌研修員と地域の子ども会の交流事業として今年で8回目となる恒例のイベント。白石区内の子ども会所属の児童、リーダーなど60名がJICA札幌を訪れて、各国の研修員たちと一緒にゲームや、各国の遊びなどを楽しんだ。

午後は、隣接するリフレ国際交流館の体育室で研修員たちがパフォーマンスを披露するなどして、最後はJICA札幌恒例の「マイアヒダンス」で盛り上がり1日を終えた。JICA研修員が日本文化を知り、児童の国際感覚を養う機会として



▲子供達と各国のゲームで盛り上がりました

JICA、北方圏センター、白石区子ども会連絡協議会が共催した。

帯広国際センター

恒例、「2009ワールド人間 ばん馬チャンピオンシップ」



▲JICAから「JICA Winnersチーム」が参戦

帯広競馬場で開かれた「とかちばん馬まつり」の2日目、11月1日(日)、帯広国際センターに滞在しているJICA研修員が人間ばん馬レースに参加、奮闘した。ジョッキーのモンゴルのハンダさんとブルキナファソ、ジンバブエ、ザンビアなどからの研修員5名を引き手とする6人1組のチーム、JICA Winnersは、雨上がりでやや重の馬場で150kgのソリを引いて90メートルを完走した。



▲ゴールに向かって猛ダッシュ!



▲急な勾配に悪戦苦闘

帯広・十勝のばんえい競馬を世界に知ってもらおうと帯広商工会議所青年部などが中心となり、「ばん馬と共に地域振興をはかる会」が毎年開催している恒例の行事である。

コラム1

けん玉できますか? モンゴル青年がけん玉道4段

10月27日の夕方、ホームステイ先の水口正之さん(滝川市)といっしょに北方圏センターにやってきたのは、モンゴル・ホブド県ホブド大学出身のアルタンホヤグ・ジャミヤンドルジさん(24歳)。今、モンゴルでは日本のけん玉が大人気だそうで、上手になりたいと日本にやってきた。10月22日、旭川市在住の日本けん玉協会旭川支部長の庄司昭志さんの審査を受け、「けん玉道4段」の認定を受けた。わずかの時間だったが、その妙技を披露してくれた。



コラム2

「グロウフィールドワーク」 中学2年生北方圏センターを訪問

11月25日、26日の午後、北海道教育大学附属札幌中学校の2年生13名が2、3名のグループで北方圏センターを訪れ、職員に仕事を通じての生き甲斐や人生の夢などについて聞いていった。

この「グロウフィールドワーク」は、同校が総合的な学習の時間の一環で実施しているもので、社会で仕事をしている人をその職場に訪ねて人生で大切にしている事柄などを直接聞き、生徒たちが自分の生き方や生きがい、将来などを考えていききっかけ作りしようという活動である。

事前に職員に訪問申し込みの電話があるなど情報活用能力の育成も目的のひとつで、当日は下調べをした資料を抱えて職員達に質問を浴びせていた。何か役立つ事を話せたのか、社会人としての責任をも感じた時間であった。後日、丁寧な礼状を送ってもらった。

